

となった。ほぼ同時期の活動と考えられるグリンタフ地域の石英閃緑岩類と四万十帯の花崗岩類との関係、それぞれの示す特徴、差異のもつ意義などを明らかにすることは、なお将来の研究に待たねばならないが、上記の事実はその解明のいとぐちを与えるものである。

4) I-S線がこのように著しい低角衝上の形をとるのは、本地域付近のみであって、南方の早川流域では高角度(50°以上)の衝上断層となっている。このことは、鳳凰および焼地藏花崗岩の上昇と結びつけて考えることができる。

インドネシアのマンガン鉱床

高島清

インドネシア、とくにジャワ島には、多くのマンガン鉱床が分布することが知られ、戦時中は、日本商社・鉱山会社の手により稼行されたこともある。

これらのマンガン鉱床は、中新世に対比されている Bentang 層と Djampang 層の岩石を母岩として胚胎している。

Bentang 層……凝灰岩・石灰岩・泥質砂岩等

Djampang 層……凝灰岩・角礫凝灰岩・安山岩・石

英安山岩等

とくに、マンガン鉱床の大部分は石灰岩および泥質岩層の下位に鉱層状をなして胚胎し、その他は石灰岩や凝灰岩質岩石中に層状あるいは脈状をなして胚胎するもの、表土中に胚胎するものなどが知られている。

これらの鉱床を構成する鉱石の鉱物組成を研究し、その特徴を調べたところ、ジャワ島における新鉱物として、todorokite が発見されたこと、この todorokite は syngenetic な鉱床に多いことが確認された。

すなわち、地質的な環境から syngenetic と考えられる Kliripan 鉱床および、同種のものは限られて todorokite が発見されており、次に、明らかに epigenetic と考えられるものの中には認められていない。

他の鉱床の組成鉱物は主として manganite と pyrolusite からなる。

鉱床の分布は西部ジャワの Karangninggal 地域、中部ジャワの Kliripan 鉱床がおもなもので、他に東部ジャワの Pugar 鉱床がよく知られており、全地域のマンガン鉱床の量は推定150万トンと考えられる。

(鉱床部)

月報第14巻第8号 正誤表

頁	行	誤	正
38	左上から5	しかし	しかも
39	左上から11	向斜構造	背斜構造
40	図版 2	上・下が顛倒している	